

集材機架線計画高度化研修 実施要領 (直営型)

一般社団法人 日本森林技術協会

目次

1. 研修概要.....	1
2. 研修カリキュラム.....	2
3. 研修実施に当たっての役割分担.....	6
4. 研修の実施決定後にお願いすること（事前準備：抜粋版）	7
5. 研修準備の進め方（事前準備：詳細版）	8
◆ 講師との日程調整	8
◆ 研修会場の選定.....	8
◆ 研修教材の準備.....	9
◆ 受講要件	10
◆ 研修経費等の負担	10

1.研修概要

研修名：森林作業システム高度技能者育成研修（集材機架線計画高度化研修）

一般社団法人日本森林技術協会（以下「当協会」という。）は、安全で効率的な架線集材を実施することができる高度技能者（**高度架線技能者**）を育成するための研修（以下「集材機架線計画高度化研修」という。）を行います。

集材機架線計画高度化研修では、座学をはじめ、作業計画や架線計画等の現地実習を実施して、林業架線作業主任者免許保有者の知識・技術の向上を図ります。

【集材機架線高度化研修の目的】

- **安全で効率的な架線集材を実施することができる現場技能者の育成**
 - 熟練技能者からの指導による架線作業等のノウハウ・コツの習得
 - 「林業架線作業主任者免許」保有者の知識・技術の向上
 - ◇ 安全性や生産性を意識した架線作業の実施及び架線計画の立案
 - ◇ 作業指揮者としてのリーダーシップの醸成

研修期間：3日間（実質 **2.5日間**）

研修カリキュラム： **2～5ページ**参照

受講生：1班（講師1名）当たり **5名程度**

その他：

- ✓ 研修の**受講料は無料**であり、研修で使用する**教材を無料で配布**します。
- ✓ 研修に係る費用は当協会が負担しますので、**研修協力者が負担する経費はありません。**
- ✓ 「よくあるご質問(Q&A集)」等を当協会のホームページに掲載しています。

2.研修カリキュラム

- ・ 研修期間は、3日間（実質2.5日間）とします。
- ・ 架線集材現場見学会場が確保できない場合には、架線作業のDVD視聴及び架線現場写真を用いた演習を行います。

日程	時間	内容
1日目	9:00-9:15	開講式、オリエンテーション 研修の目的、進行方法、安全留意事項の説明、受講者自己紹介
	9:15-12:00	【講義】：技術マニュアル 第1章 架線集材の必要性和架線系作業システムの動向 第2章 集材機械と索張り方式 第3章 生産性とコストのマネジメント 第4章 作業計画・架線計画 第5章 集材機による架線作業 参考資料 基礎力学（張力・荷重の基礎） 森林施業における ICT 等先端技術の概要
	13:00-17:00	【現地見学】集材機による主索を用いた架線集材現場を見学 架設作業や機械配置、安全対策を観察
2日目	9:00-12:00	【演習（室内）】：作業計画・架線計画（机上計画） GIS・DEM等を活用し、土場・集材機・支柱位置等を検討
	13:00-17:00	【演習（現地）】：作業計画・架線計画（現地踏査） 机上計画で作成した案を現地で確認 地形・立木条件・作業路配置などを確認し、計画修正を実施
3日目	9:00-10:30	【演習（室内）】：計画の取りまとめ 各グループの最終計画を発表 設計の根拠や安全の工夫、生産性・コスト面の考え方を共有
	10:30-11:30	【講義】：技術マニュアル 第7章 ワイヤロープ等の概要・取扱方法 第8章 機械集材装置の点検 第9章 安全作業 第10章 架線集材におけるその他の留意事項
	11:30-12:00	全体意見交換・閉講式

※毎日確認テストを提出してもらい、質問事項については翌朝に講師が回答

※適宜休憩時間をとる

※現地実習は会場までの移動時間を含む

【集材機架線計画高度化研修のポイント】

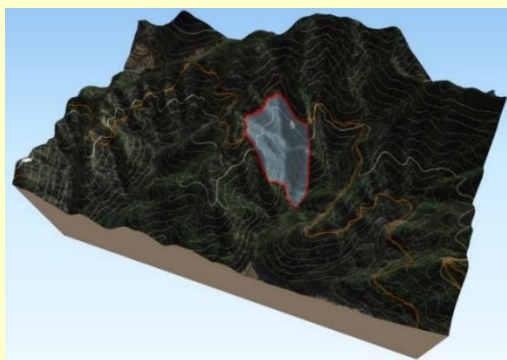
- 安全で効率的な架線作業を行うための基本的な考え方を学ぶ講義
 - ◇ 『高度架線技能者技術マニュアル 2014』を用いて実施
 - ◇ 林業架線作業主任者の職務を再確認し、安全作業への意識を向上
 - ◇ 安全な架線作業を行うために必要な基礎力学や安衛則の則った架線作業の基本を理解
 - ◇ 生産性の把握方法や向上策を理解し、生産性への意識を向上
- 架線計画の立案と生産性把握の考え方を習得する架線計画実習・演習
 - ◇ 班長を中心に受講生が自ら考える架線計画実習・演習
 - ◇ 集材架線設計計算により、主索や作業索にかかる張力を「見える化」
 - ◇ QGIS、DEM 等を使用して地形縦断及び主索の垂下量を推定するシミュレーションを実施
 - ◇ 主索や作業索にかかる張力や基礎力学を考慮した現地踏査の実施
 - ◇ 生産性のシミュレーションにより生産性把握の考え方を習得
- 機械集材装置の設置状況の良否を判断するための実習
 - ◇ 架線集材現地見学により機械集材装置の設置状況に問題が無いか判断する知識を習得
- 作業指揮者としてのリーダーシップの醸成
 - ◇ リーダーとして、作業内容等の他者への指示・説明を実践
 - ◇ 他者へ説明できる作業を行うことで、自信と責任感を向上
- 熟練技能者によるノウハウ・コツを指導
 - ◇ 実習を通じた意見交換により、架線作業の熟練技能者がノウハウ・コツを指導
- ICT 等先端技術の活用に関する知識の習得

● 研修における ICT 等先端技術の活用の取組

- 本研修では、無償で利用できるオープンソースの GIS 等を積極的に活用することで、受講生に対して、森林施業を効率化する ICT 等先端技術の普及を図ります。
- なお、パソコン操作等は当協会の事務局が担当します。

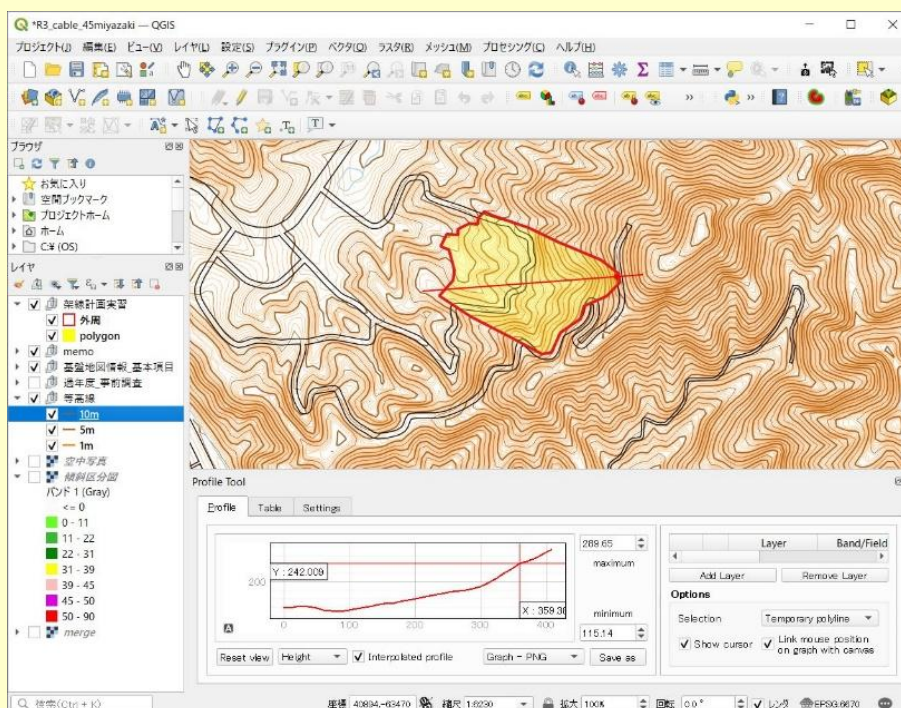
(ア) 机上計画

- ◇ 事前に準備した GIS を活用して、効果的・効率的に机上計画を実施します。机上計画では、現地の状況を事前確認で得た資料をもとに GIS で提示して説明します。
- ◇ 現地の状況を GIS でわかりやすく提示するために、3D モデルを作成します。背景は、微地形表現図のほか、地形図や空中写真に切り替えることも可能です。3D モデルは、架線配置の検討、地形の起伏や傾斜の把握等で活用します。
- ◇ 受講生が検討した結果については、GIS でとりまとめ、架線計画のシミュレーション等に活用します。

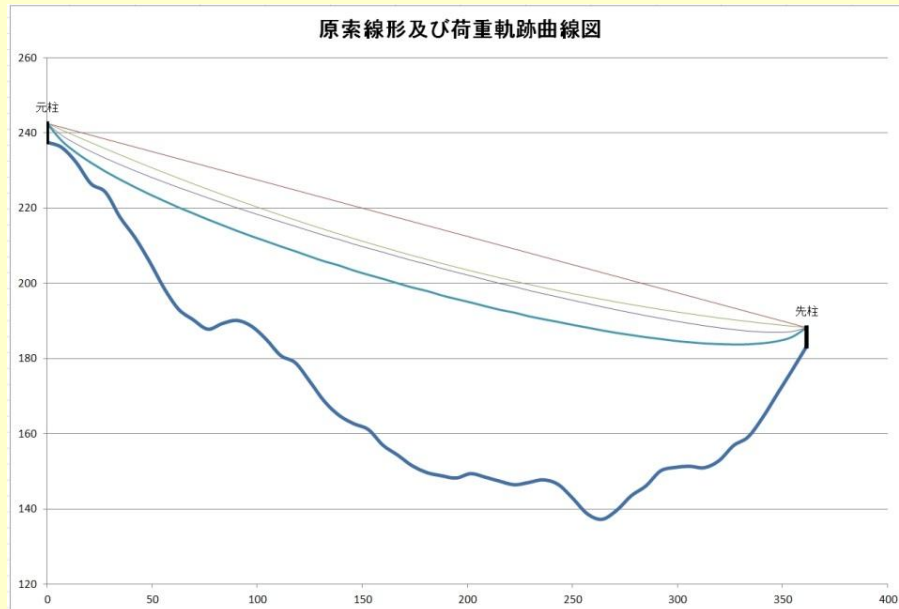


(イ) 架線計画

- ◇ 架線計画では、机上計画で検討した架線配置箇所について縦断図を作成し、架設可能な場所であるかを確認することができます。



- ◇ 架設可能な場所を判断したら、集材架線設計計算を行い、その結果を用いて、主索の張り上げ状況についてのシミュレーションができ、受講生の理解度の向上に役立ちます。



(ウ) 現地踏査

- ◇ 現地踏査では、GIS で整理したデータをタブレット端末等に表示させることができるアプリケーションを活用します。
- ◇ 事前に整理した GIS のデータをタブレット端末等に取り込み、現地踏査の際には、現在位置や机上計画との違い等を確認して、研修の効果を高めます。
- ◇ 背景地図にオフライン地図を利用することで、インターネット通信が届かない山間部でも、地図を表示することが可能です。
- ◇ タブレット端末等に搭載されている GPS 等を活用することで、机上計画で選定した支柱や集材機の設置箇所等の位置が、現地で確認しやすくなります。
- ◇ 現地踏査の軌跡や写真撮影場所の記録、受講生の現地で気づいたことのメモ等を位置情報とともに記録させ、室内会場に戻った際には、再度 GIS に入れて、踏査の結果のとりまとめや意見交換に役立てます。



3.研修実施に当たっての役割分担

■ 研修協力者

【実施決定前】

- 研修実施要望書の提出

【実施決定後】

- 研修実施計画書の提出
- 研修会場の確保
- 講師の選定（日程調整）
- 受講生の募集、受講要件の確認
- 緊急連絡体制図の作成
- 安全管理、進捗状況管理への協力
- 作業計画、架線計画地の地形図（1/5,000）、森林基本図等の準備

■ 当協会

- 受講要件や研修カリキュラム等の提示
- 講師の選任及び派遣依頼等の事務手続き
- 研修教材・器材等の提供及び会場確保の協力（事前確認等）
- 研修受講希望者の審査
- 安全管理、進捗状況管理
- 研修経費の支払い（室内会場の借料、講師の謝金・旅費等）

4.研修の実施決定後にお願いすること(事前準備:抜粋版)

◆ 研修日程の確定

現時点(要望を伺っている今の段階)では、未定で構いません。
実施決定後に、講師と日程を調整する上で決めていただければ結構です。

◆ 研修会場の選定

現時点(要望を伺っている今の段階)では、未定で構いません。

①室内会場、②架線集材現場見学会場、③作業計画・架線計画実習会場の各会場が必要となりますが、当協会の担当者と協力して選定していきます。

なお、架線集材現場見学会場は、確保できなくても研修を実施できます。

◆ 受講生の募集

次の受講要件を全て満たしていることが必要です。

- ・ 高度な架線技術に必要な技能を習得しようとしている者
 - ・ **林業架線作業主任者免許**の保有者又は**架線作業スタートアップ研修修了者**
 - ・ 架線作業(ワイヤロープ加工を含む)の実務経験者
 - ・ 労働災害補償保険の適用を受けている者(個人事業主は問わない)
- ※研修受講後、5年以上就業できる者

◆ 事前確認

現場に応じた効果的な研修を実施するために、講師・研修担当者・事務局の三者による事前確認(研修の進め方、指導内容等の確認、研修会場の確認、受講生プロフィールシート記載内容の確認、架線計画実習での集材範囲等の設定、研修で使用する器材の確認等)を実施します。

◆ その他(連絡調整)

「研修の進め方」を記載した詳細資料や様式等は、後日、配布します。
併せて、当協会の担当者を配置して連絡調整に当たり、講師の選定や研修会場の選定等をサポートします。

5.研修準備の進め方（事前準備：詳細版）

- ① 研修協力者は、**育成研修の実施要望書**を当協会に提出
- ② 「**研修の進め方**」を記載した**詳細資料や様式等**を確認（実施希望者に対して、当協会では、担当者をそれぞれ配置し、連絡調整や講師選定、研修会場選定等をサポート）
- ③ 実施希望者は、研修期間を確定し、講師予定者や研修会場を選定した上で、**研修実施計画書**を**研修実施の1カ月前までに提出**
- ④ 当協会は、実施希望者と調整して講師を決定し、講師依頼書を所属長宛に送付
- ⑤ 実施希望者は、受講生の受講要件を確認した上で、**受講生一覧、受講生プロフィールシート、緊急連絡体制図等**を**研修実施の2週間前までに提出**
- ⑥ 研修実施前に、講師・実施希望者・当協会**で事前確認（事前打合せ）**を実施（研修の進め方、研修会場の確認、研修で使用する器材の確認等）
- ⑦ 研修の実施
（実施希望者の協力を得ながら**研修期間中の運営管理等は当協会が実施**）

◆ 講師との日程調整

講師は、事務局が都道府県別に把握している熟練技能者のリストの中から平成26年度実施の当該事業の「試行的運用検討会」又は平成27年度実施の「現地検討会」に参加した者を基本として選定することになります。

なお、講師の選任は、実施希望者の意向を勘案して当協会が行いますが、選任した講師との日程調整等については、実施希望者で行っていただきますようご協力をお願いします。

◆ 研修会場の選定

集材機架線計画高度化研修の会場として、室内会場、架線集材現場見学会場、作業計画・架線計画実習会場が必要であり、それぞれの会場は、以下の点に注意して選定してください。

なお、研修会場選定に当たっては、当協会の担当者がサポートしますので、気軽にご相談ください。

➤ 室内会場

研修期間中（2.5日間）の使用が可能であり、プロジェクター等が利用できる場所を確保してください。

➤ **架線集材現場見学会場**

集材機による主索を用いた索張り方式での架線集材現場を選定してください。見学会場が確保できない場合は、架線作業のDVD視聴と架線現場写真を用いた演習を実施します。

- ・架線集材現場を見学することができれば、より現実的な実習が可能

➤ **作業計画・架線計画実習会場**

路網から近く、伐期に近い立木の存する場所（皆伐を想定）が望ましいです。

- ・集材範囲等の詳細については、講師・実施希望者・当協会との事前確認において決定

➤ 室内会場から現地実習の各会場までの移動時間は、概ね1時間程度以内を想定し、研修の日程を無理なく実施できる範囲で実習会場を選定してください。

➤ 2班で同時に研修を実施する場合は、2班が同時に実習可能な場所を選定してください。

【実習会場の選定例】

○架線集材現場見学地

- ：林業経営体が実行中（皆伐）のダブルエンドレス方式の架線集材現場
- ：林業経営体が実行中のエンドレスタイラー方式の架線集材現場

○作業計画・架線計画実習会場

- ：県有林（試験林、実験林）や市有林において、皆伐を想定して実施
 - ：森林組合が伐採（皆伐）を予定している民有林で実施
 - ：間伐実行後の県有林で、皆伐を想定して実施
 - ：大学の演習林において、皆伐を想定して実施
- いずれも伐期に近い林分で実施

◆ **研修教材の準備**

➤ 研修教材「高度架線技能者技術マニュアル 2014」、DVDについては当協会が準備します。なお、受講生には、無料で配付します。

◆ 受講要件

受講生になるには、次の5つの要件をすべて満たしている必要があります。

- 高度な架線技術に必要な技能を習得しようとしている者
 - **林業架線作業主任者免許**の保有者又は**架線作業スタートアップ研修修了者**
 - 架線作業（ワイヤロープ加工を含む）の実務経験者
 - 労働災害補償保険の適用を受けている者（個人事業主は問わない）
- ※研修受講後、5年以上就業できる者

- ✓ 林業架線作業主任者免許証又は架線作業スタートアップ研修修了証書のコピーを研修実施2週間前までに当協会に提出してください。
- ✓ 緑の雇用担い手対策事業における研修生が受講する場合、本研修の実施期間は、同事業による研修実施日から除外し、補助事業と委託事業による研修が重複して実施することのないよう注意してください。
- ✓ 研修修了者に対して修了証書を発行します。

◆ 研修経費等の負担

- 研修の受講料は、**無料**です。
- 研修に係る経費については、全て、当協会が負担します。（**実施希望者が負担する経費はありません。**）